



事務所：長野県伊那市西町 5016-2 電話 0265(76)5858 例会日：毎週火曜日 例会場：海老屋料理店 0265(72)2158  
 会長：唐澤敏治 副会長：田中洋 幹事：市川満貞

<p>ロータリー： 変化をもたらす</p>	<p>2017-2018 国際ロータリーのテーマ  <b>ロータリー：変化をもたらす</b>                  ROTARY: MAKING A DIFFERENCE</p> <p>2017-2018 RI会長                  イアン H.S. ライズリー                  オーストラリア                  (ビクトリア州)</p>	
<p><b>第1412回例会 平成29年8月8日(火)</b></p>		

■ 点 鐘 12:30

■ ソング 翔け 中央ロータリー 平澤理ソングリーダー



■ 会長談話 唐澤敏治会長



台風5号の影響で開幕が1日延期された、第99回全国高校野球選手権大会が今日開幕となりました。長野県代表松商学園高校は久しぶりの甲子園出場です。もう25年以上前に好投手 上田佳範選手をもって春・夏 大健闘した時を思い出します。特に春は、広島商に決勝で敗れ大粒の涙を夜遅くまで全選手が流していました。私も中学生の野球大会に同行した時、よく上田選手を見ました。何故といえば、当時松商学園と名工電と良く練習試合をしていました。この時、上田選手はショート、名電の投手は何と鈴木一郎。今あの有名なイチローでした。夏でしたので子供達に持って行ったスイカを名電の選手にも分けてやりました。美味しそうに食べていたイチローの姿が目には浮かんできます。こんなに有名な選手になれたのも人の出会い！仰木監督の判断は素晴しかったと思います。上田選手もショートからピッチャーに移り、素晴らしいスピードボールを投げ、春決勝・夏ベスト8、素晴らしい活躍でした。最近の松商は「出ると負け」あまり良くない評判ですが、1人1人日頃の練習成果を十二分に発揮し頑張ってください。検討を祈ります。長野県人として心から応援しています。

■ ニコニコボックス

- ◆唐澤敏治 台風5号が日本列島を暴れまくり各地に大きな被害が出ています。県内も多くの被害が出ていますが、伊那地区は幸運だと思います。この幸運にすべてをかけ頑張りましょう。
- ◆矢島宏 我がロータリークラブが寄贈したバッティングマシンが活きました。伊那東部中が見事、北信越総体で見事に優勝しました。目標は全国制覇です。九州鹿児島で18日～20日まで行われます。皆で応援しましょう。
- ◆唐澤稔 台風5号が通り去り伊那市の被害はありませんでした。東部中が北信越で優勝しました。ご協力をお願いします。
- ◆唐澤千明 伊那まつりも成功のうちに無事終了しました。皆様お疲れ様でした。いよいよお盆を迎えますが体には充分気を付けてお過ごし下さい。

■ 幹事報告 市川満貞幹事 幹事報告は別紙をご覧ください。

■ 委員会報告

・8月3日(木)～4日(金) 地区インターアクト夏期合宿の報告 矢野昌史地区インターアクト委員



会場：3日/安曇野市豊科学習センター 4日/国営アルプスあづみ野公園  
主管：南安曇農業高校インターアクトクラブ

3日午前 基調講演 講師：原田義之先生(国際ロータリー第3360地区 タイ国チェンライRCパスト会長)

演題：輝く瞳に会いに行こう」(アカ族を支援をしている)

3日午後 ●各学校独自研修報告

・伊那西高校 ～ 昨年行われた留学生との交流会の紹介

●パネルディスカッション

・松商学園、下伊那農業、伊那西、南安曇農業 ～ パネラー

●交流会 学校紹介と活動紹介

・伊那西高校 ～ 学校紹介、インターアクト活動、手話で童謡を唄う

4日 班対抗マレットゴルフ大会 <移動-国営アルプスあづみ野公園>

・10時30分から12時10分までオリエンテーリング

公園内を6～7人、1グループで回る

・昼食後 2日間の感想を各学校から発表してもらう

・2時 解散

・矢島宏 創立30周年実行委員長より



東部中学校ソフトボールクラブの北信越総体優勝と全国中学大会出場の報告がありました。(ニコBOXコメント参照)

■ 出席報告

会員数47名 出席免除会員7名 長欠会員2名 本日出席者26名 事前メイク3名  
出席率72.5% 前回出席率 修正なし

■ 臨時理事会報告 市川満貞幹事

1. 地区補助金事業について
2. その他

## ■ クラブフォーラム

「ロータリー財団委員会」 小向誠一ロータリー財団委員長

### ・卓話 中川博夫地区ロータリー財団委員会資金推進小委員会委員



地区ロータリー財団資金推進小委員会（ロータリーカード担当）委員としてクラブより派遣されております。この委員会の目的は、ロータリアン・クラブの各種支払を「ロータリーカード」で決済していただくことにより、ポリオ撲滅を加速させることにあります。

このカードを使うと、利用額の0.3%がポリオ活動資金として使われます。ポリオ撲滅は財団活動の1つの柱となっていますので、皆様のご協力をお願いします。

最近、オリコに加えてダイナースも使えるようになりましたが、カード利用者が少ないのが実状です。かくいう私も持っていない1人ですが、年会費無料・手数料は一切かかりませんので、ETCをロータリーカードで支払うよう手続きする予定です。

さて、新たにカードを作れといっても躊躇するのが人情です。ですから、ロータリー財団の活動、仕組みを理解していただくことが先決と思い、この場に立ちました。

ロータリーの根幹を成す「超我の奉仕」を実践するプログラムの一つがロータリー財団です。1987-88年度 国際ロータリー会長 チャールズ・ケラー氏の言葉を借りれば、『奉仕の理念は人々をつなぐ真の絆である。奉仕とは、単によいことをするだけでなく、人々の役に立つことだ。世界では人々が異なる言語を話し、異なる食事をし、異なる衣服を着て、異なる宗教を信奉している。こうした人々を結び付けるには、強力な絆が必要である。ロータリーでは、その絆が超我の奉仕という理念なのである』。この言葉こそ財団の使命です。

それでは、成り立ちかというと、1917年、第1次世界大戦のさなかに、ロータリー財団の原形が誕生しました。1916-17年度ロータリー・クラブ国際連合会（後の国際ロータリー）会長であり、財団創設者のアーチ・クランプは、「われわれはこの財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきである。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからである。」「ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。たとえ、大理石に文字を刻んだとしても、やがては崩れてしまうだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。だが、心の中にその精神を刻むならば、そして、ロータリー精神と、神をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、われわれが刻んだものは永遠に輝き続け、文明の続く限り、ロータリーを不滅のものとするだろう。」と述べています。

我々が、「世界中でよいことをしよう」、「奉仕の輪を拡げよう」としても、財源がなければ空論であり、地域・世界は変わりません。ですから、我々が自主的な奉仕活動をするための財布を持ち、世界中で奉仕活動を行い、ロータリー精神を拡げ続ける。この手助けをするのがロータリー財団です。

設立時は26ドル50セントでしたが、現在資産は約10億ドルにまで成長し、これまでに30億ドルもの資金が、世界中の何百万人もの生活に変化をもたらすプログラムや奉仕プロジェクトに投じられてきました。「25億人の子どもにポリオ予防接種を行い、野生ポリオウイルスによる発症数は99.9%減少」、「900人以上のフェローが平和センターで研究を行い、紛争解決、戦後処理、平和推進のスキルを習得」、「何十万人もの人びとに、きれいな水へのアクセス、医療と保健、教育の機会を提供」などですが、最近「未来の夢計画」により、各クラブが地区補助金を使って、新たな奉仕の機会を作れるようになりました。

財団のしくみ、補助金等につきましては次の機会といたしますが、本日お配りした資料をお目通しいただければ幸いです。

## ■ 点 鐘

13:30

次回例会

8月22日(火)

14:00～ マレットゴルフ大会(羽広マレットゴルフ場)

18:30～ 納涼家族例会(海老屋料理店)

## I-1. ローター財団の使命

ロータリアンが  
健康状態を改善し  
教育への支援を高め  
貧困を救済することを通じて  
世界理解、親善、平和を  
達成できるようにする



世界でよいことをした100年

「ロータリークラブは、場所を問わず一つの基本的理念をもっている。それは奉仕の理念で、他の人々を思いやり 他の人々の役に立つことである」と書かれている。

奉仕の理念は人々をつなぐ真の絆である。奉仕とは、単によりよいことをするだけでなく、人々の役に立つことだ。世界では人々が異なる言語を話し、異なる食事をし、異なる衣服を着て、異なる宗教を信奉している。こうした人々を結び付けるには、強力な絆が必要だ。ロータリーでは、その絆が超我の奉仕と言う理念なのである』

1987-88年度 国際ロータリー会長 チャールズ・ケラー 氏の言葉より

## I-3. ローター財団の成り立ち

アーチ・クラフのビジョン(1917年)

諸々の社会奉仕を  
今まで通りに実行していくには、  
慈善・教育・その他の  
社会奉仕の分野において  
世界でよいことをするための  
基金を作るのが、  
極めて適切であると思われる

— アーチ・クラフ、1917年



「き続け、文明の続く限り ローターを不滅のものとするだろう。」と述べています。1930年代には、大恐慌が世界中で影響を及ぼし始めました。そのとき、財団は最初の補助金を授与しました。

第1次世界大戦のさなかにロータリー財団の原形が誕生しました。

財団設立に当たって、アーチ・クラフは「われわれはこの財団を今日明日の時点ではなく、何年、何世代の尺度で見つめるべきである。なぜなら、ロータリーは幾世紀にもわたる運動だからである。」。ロータリー財団は、レンガや石の記念碑を建てるものではない。たとえ、大理石に文字を刻んだとしても、やがては崩れてしまうだろう。真鍮を使ったとしても、いつかは汚れてしまうだろう。だが、心の中にその精神を刻むなら、そして、ロータリー精神と、神をおそれ同胞を愛する気持ちを吹き込むならば、われわれが刻んだものは永遠に輝

## IV-3. 私たちひとりひとりが出来ること「寄付者の認証」

大切な一歩が

1917年 26ドル50セント から始まった

ロータリー財団100年の歴史

だから 私たちも



◇1947 ローター創始者ポール・ハリスの死を悼み、国際ロータリーに寄付が相次いで寄せられたのを機に、財団はポール・ハリス記念基金を設け、ポールに敬意を表したいロータリアンに対して、財団寄付をお願い。翌年の7月までに、米貨130万ドル以上が寄付された。

◇1947年最初の財団プログラム「高等研究奨学金」が実現。

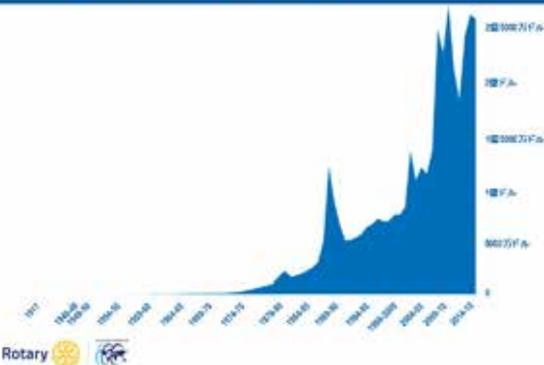
◇1957 ローター財団は、財団の活動に寄付した人々への感謝を示す手段として、ポール・ハリス・フェローの認証を開始。

◇1985年 ローター100周年の2005年までにポリオの撲滅を目指し、ポリオプラスプログラムをスタート。

◇2010 世界100地区で未来の夢計画がスタート。

◇2013 世界中で未来の夢計画を展開することになった (global launch)。

#### I-4. この100年の寄付額の推移



財団創設後の30年間においては、財団の資産はほんとうに僅か少しずつ成長するのみで、実際、1917年から1947-48年度の末にかけて財団が受領した寄付は合計でもわずか200万ドルほどでした。しかし、1917年になされた最初の26ドル50セントの寄付から、資産10億ドルの世界最大規模の財団に成長し、今日、何百万人も我的生活に変化をもたらしています。

#### III-3. 新しい補助金モデルでの実績



財団の歴史で振り返ったように、26ドル50セントの最初の寄付が行われて以来、財団の資産は約10億ドルにまで成長し、これまでに30億ドルもの資金が、世界中の何百万人も我的生活に変化をもたらすプログラムや奉仕プロジェクトに投じられてきました。

また、財団は次のような影響をもたらしてきました。

- 25億人の子どもにポリオ予防接種を行い、野生ポリオウイルスによる発症数は99.9%減少
- 900人以上のフェローが平和センターで研究を行い、紛争解決、戦後処理、平和推進のスキルを習得
- 何十万人もの人びとに、きれいな水へのアクセス、医療と保健、教育の機会を提供

#### II-1. 初期の財団プログラム: 大学院奨学金 (1947年)



1947年、財団は「高等教育のためのロータリー財団フェローシップ」というプログラムを開始しました。写真は『ロータリアン』誌に掲載されたもので、1947-48年度に奨学金を受けた最初の奨学生グループです。

奨学金の受領条件はその後の70年間に更新を重ね、その名称も「ポール・ハリス・フェローシップ」「国際親善奨学金」「ロータリー奨学金」と変更されましたが、将来有望な学生に海外留学の機会を与えるという概念は当初から変わっていません。

ロータリーの奨学生には後に著名人となる多くの方がおり日本人では宇宙飛行士の山崎直子さんや、元国連難民高等弁務官の緒方貞子さんなどがおられます。

#### II-2. 最初の3-Hポリオ補助金 (1979年)

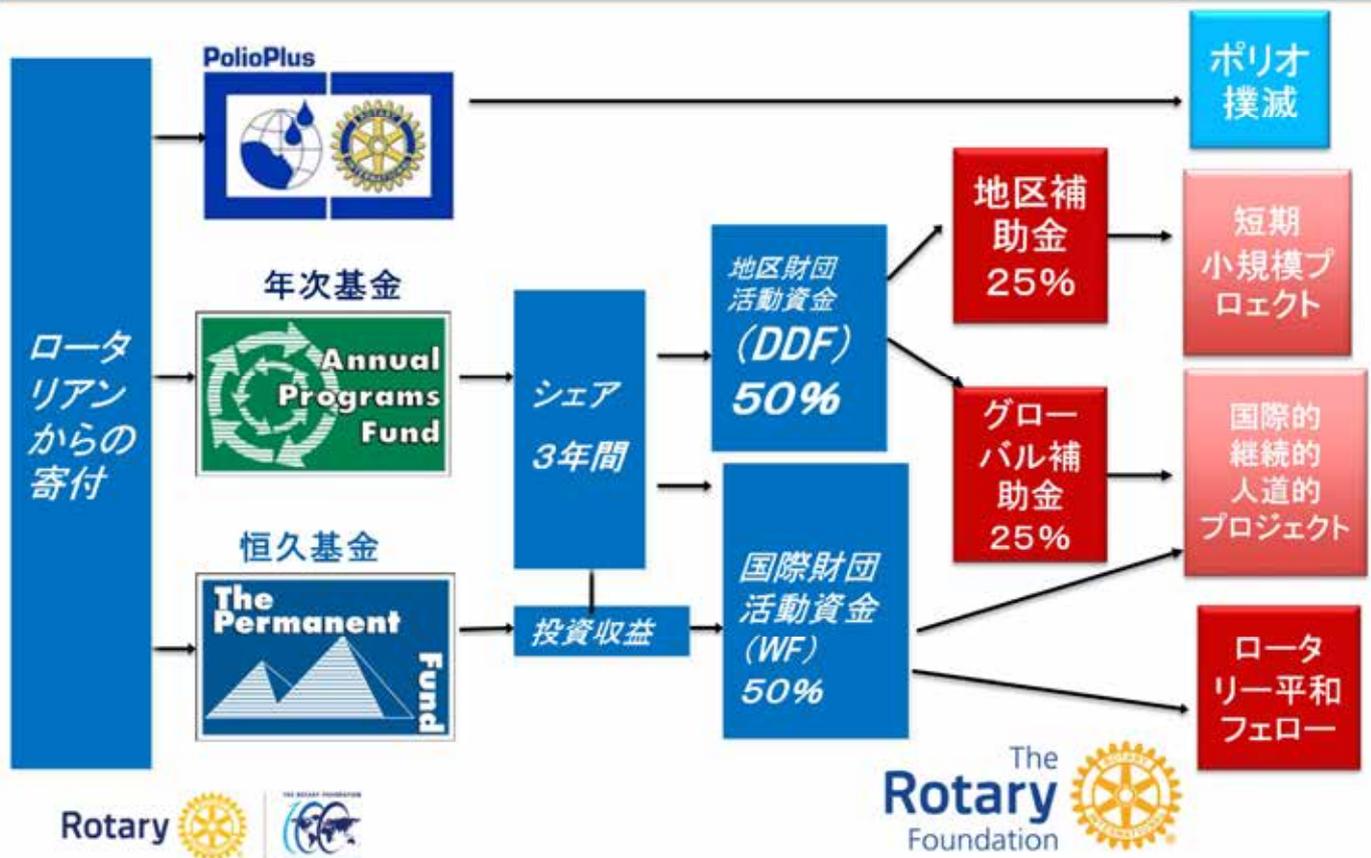


ポリオ撲滅をめざす闘いは国際ロータリーのプログラムの中でも、とても重要な位置を占めています。

このように、地球規模での一大プロジェクトとなる国際ロータリーの活動は、元はと言えば、実は、日本の東京麹町ロータリークラブが中心となり、2580地区（東京・沖縄）と2750地区（東京・北マリアナ諸島・ミクロネシア・パラオ）の各クラブに提唱したポリオ撲滅運動に端を発します。

フィリピンの子ども600万人にポリオ予防接種を提供するための複数年プロジェクトは、1979年、マニラの子どもたちへの経口ポリオワクチン管理を通じたプロジェクトから開始されました。

### Ⅲ-4. “資金の流れ”から見た「新しい補助金モデル」



ロータリー財団への寄付の窓口となる主な基金には、ポリオプラス基金、年次基金、恒久基金の三つがあります。

ポリオプラス基金への寄付（伊那中央RC30年度実績40\$）はポリオ撲滅のためだけに使われますが、年次基金と恒久基金への寄付は、シェアシステムと呼ばれる仕組みを通じ、様々な活動を支える補助金に生まれ変わります。

年次基金（シェア）への地区内のクラブからの寄付はすべて3年間投資され、ロータリー年度末に、その50%が地区財団活動資金（DDF）、残り50%が国際財団活動資金（WF）に配分されます。ですから、地区は、寄付の3年後にこのDDFをクラブや地区、または財団のプロジェクトのために活用できます。DDFは、更にその半分までを地区補助金として使用でき、残りの半分をグローバル補助金のために使うことができる。

恒久基金への寄付は、基金の元金となり恒久的に維持されます。これは財団が将来も確実に活動を続けていくための備えとなります。また、基金資金を投資することによって得られた収益の一部が、財団の補助金とプログラムに充てられます。財団は、2025年までに恒久基金の資金10億ドルを集めることを目標としています。

国際財団活動資金（WF = World Fund）は、世界の最優先課題に取り組む活動に資金を提供するものです。シェアシステムを通じた寄付の50%がWFとなりますが、寄付すべてをWFに指定することも可能です。WFはロータリー財団が管理し、全ロータリー地区が申請できる補助金やプログラムの資金として活用されます。草の根や国際レベルで、平和活動に貢献する人材を育てるロータリー平和フェローシップ（伊那中央RC30年度平和センター寄付10\$）にも、この国際財団活動資金（WF）が資金源となります。

財団の運営費（寄付推進費と一般管理運営費）の大半は、投資収入によって賄われます。恒久基金の投資収入の一部も、運営費に充てられます。

## Ⅲ-2. 地区補助金

- 小規模、短期のプロジェクト
- 地元または海外での活動
- ロータリー財団の使命を支える活動
- 年に一度、地区に一括支給



クラブが地区補助金を活用することで、社会に貢献するロータリークラブとして存在をアピールしつつ、クラブ活動をより充実したものにするための制度です。

未来の夢計画から生まれた地区補助金は、地元や海外の地域社会のニーズに取り組むための、比較的規模の小さい、短期的な活動を支援します。各地区は、この補助金を配分するプロジェクトを独自に選びます。

地区補助金は、地区やクラブの幅広いプロジェクトや活動に活用できます。

- 人道的プロジェクト 奉仕活動を行うための現地への渡航や災害復興活動など

- 職業研修チームの派遣
- 教育機関のレベルや場所、支給期間、専攻分野の制約のない奨学金にも使えるのですが当地区では実施していません

地区は、DDF（地区財団活動資金）の50%までを地区補助金として毎年申請できます（50%全額を申請する必要はありません）。この50%は、3年前に地区が年次基金に寄付した額（および恒久基金への寄付の投資収益）によって生まれたDDFを基に計算されます。

## Ⅱ-3. グローバル補助金 対象となる6つの重点分野

- 平和と紛争予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生
- 母子の健康
- 基本的教育と識字率向上
- 経済と地域社会の発展



世界各地のロータリークラブが地元のニーズに応じた独自の活動を行う一方、国際ロータリーは世界全体で、今ご覧の、6つの重点分野を定め、できるだけ大きな活動成果をもたらす努力をしています。

- 平和と紛争予防／紛争解決
- 疾病予防と治療
- 水と衛生
- 母子の健康
- 基本教育と識字率向上
- 経済と地域社会の発展

グローバル補助金は、ロータリーのこれら6つの重点分野に該当し、持続可能かつ測定可能な成果をもたらす大規模な国際的活動を支援します。クラブと地区は、グローバル補助金を通じて地域社会のニーズに対応する活動を行うことで、グローバルなパートナーシップを強化できます。

- 人道的プロジェクト
- 大学院レベルの留学を実現するための奨学金
- 職業研修チーム（VTT）：専門職業に関係する研修を提供するチームや、研修を受けるチームを海外に派遣